

6. 46年度と比較して正答率が10%以上向上した問題

国語

領域	問題番号	出題のねらい	正答率の比較		
			46年度 正答率 (A)	52年度 正答率 (B)	差 (B-A)
① 書く (文字)	一 2 7 9	漢字を正しく書く	26.8	46.8	20.0
			23.0	54.8	31.8
			54.9	65.5	10.6
	二 3ア	形の似た漢字を使いわけ	43.1	53.1	10.0
	三 1イ	正しい筆順で漢字を書く	70.8	80.8	10.0
四 4	送りがないを正しく書く	53.4	71.3	18.3	
② 読む (文字)	一 4	細かい点に注意して読む	66.9	77.3	10.4
	二 2	文章の要点を読みとる	49.1	63.4	14.3
	三	事実と意見を判別して読む	40.0	57.6	17.6
③ 読む (文字)	一 1 2 8 9 10	漢字を正しく読む	58.8	79.4	20.6
			78.4	91.8	13.4
			63.0	80.2	17.2
			38.4	74.1	35.7
			66.3	88.6	22.3
	二 1ア イ	漢字の音・訓を読みわけ	76.9	87.6	10.7
			53.0	69.9	16.9
	四 1 2	辞書の引き方がわかる	34.7	54.9	20.2
			24.4	44.5	20.1
	④ 読む (語句)	六 1(1)	語句の構成がわかる	56.9	68.5
2(1)			61.4	72.9	11.5
⑥ 書く (文章)	三	文を続けて文章をつくる	65.1	78.6	13.5

- ① の領域の伸びは、2番めに高い。特に「漢字を正しく書く」の、7、「暖かい」の、のびが目立つ。2は、対策であり、9は、「賛成」である。また、送りがない「捨てる」も高いのびである。
- ② この領域が3番めののびである。特に、三がよくのびている。これは、「考えをのべている文」を選ぶ問題である。細部の読みとりは、高度の能力であると考えられるが、のびている。
- ③ ここは「足の筋がいたむ」がのびている。また、「辞書の引き方がわかる」もよくなっている。ここは基礎的な力であるので、大事に指導したいところである。領域としてはもっとも、のびている。
- ④ これは「同じ意味の漢字でできているもの」「一方が、他方を修正しているもの。」を問うものである。
- ⑥ これは、「文を続けて、もとの正しい文章になるようにする」問題である。

以上、10%以上ののびを示しているものが多く、着実に力がついていると言えよう。

なお、46年度と比較して、正答率が伸びているのは、22問で、全体の小問数が122問であるから、小問数の18.2%が高い正答率を示したことになる。これを各領域別にまとめてみると、次の表のようになる。

領域	小問数	10%以上、上がった問題数	%
① 書く(文字)	28	6	21.4
② 読む(文章)	27	4	14.8
③ 読む(文字)	18	9	50.0
④ 読む(語句)	24	2	8.3
⑤ 書く(語句)	14	0	0
⑥ 書く(文・文章)	10	1	10.0
全体	121	22	18.2

③の領域が、特によくなっていることがわかる。他の領域は今後、更に指導の工夫が望まれるところである。